

カレッジ防衛モニターの職場体験研修

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 松田辰雄）は、2月13日（月）、海上自衛隊横須賀教育隊において、神奈川県本力カレッジ防衛モニター4名の職場体験研修を実施した。同研修は、参加したモニター全員が自衛官を志望し、部隊での訓練等を是非体験してみたいとの強い要望に応えるため、横須賀教育隊の協力を得て、実現したものである。

当日は、基本教練をはじめ、手旗訓練や結索訓練の体験を行なった。基本教練では、初めての動作に当初戸惑いも見られたが、教育隊教官による厳しさの中にも愛情あふれる指導により、最後は緊張感のあるきびきびとした動作を習得していく様子を垣間見ることができた。また、手旗及び結索体験では、与えられた課題を時間内に習得するために、全員が団結して一生懸命に取り組み、最後の成果発表では、教官から「上出来」との評価を受けるまでに上達した。

体験終了後、モニターからは、「自分が入隊するかもしれない部隊で様々な体験ができ、入隊に対する意欲が向上した」「教官の厳しくも親身な指導に感動した」などの声を聞くことができた。



基本教練体験の様子



手旗体験の様子



結索体験の様子



全員揃って敬礼

横須賀教育隊にて職場体験

神奈川地本カレッジ防衛モニター 亀谷 拓海

2月13日（月）、カレッジ防衛モニターの活動として、海上自衛隊横須賀教育隊において、職場体験を行なった。

まず初めに、基本教練を体験した。基本教練は、自衛隊の各種行動に適応させるための基礎を作るもので、自衛官が日々の勤務で行う動作の基本となるものだ。実際に体験してみると、基本姿勢となる不動の姿勢だけでも意外に辛く、観閲式等において不動の姿勢を長時間続ける自衛官の凄さを身に染みて感じ取ることができた。

基本教練が終わると昼食の時間となり、隊員食堂において体験喫食した。毎日の食事は栄養士の管理のもと、必要なカロリーがしっかりと計算されていることである。また、海上自衛隊では食事を作る人も自衛官であり、艦内では火災を防ぐために調理方法は全て電気または蒸気だそう。喫食してみると、味は申し分なく、とても美味しくいただくことができた。

午後の前半は、手旗の体験を行なった。赤白の手旗を使い遠方への通信を行う手段であり、カタカナを形作るものである。手旗信号の基礎を習った後、自分の名前を全員で発表し合う体験を行なった。短時間の練習のため、完全にはマスターできなかったものの、努力の甲斐あって何とかやり遂げることができた。

最後は、結索体験を行なった。もやし結びという、結びの王様と呼ばれるほど幅広い用途に使える結索法を学び、素早く結ぶまでには到達しなかったものの、最低限確実に結べるようにはマスターすることができた。

今回の研修を通じて、隊員が日頃どのような訓練を受けているのかなど、教育隊における教育内容の一端を垣間見ることができた。また、休憩時間には隊員から、海上自衛隊が国際協力活動として行っているソマリア沖・アデン湾での海賊対策活動等の様子についての貴重な話を聞くことができた。非常に有意義な一日であった。



基本教練の体験の様子



手旗体験の様子